

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立稲葉特別支援学校)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿	○児童生徒一人ひとりの能力や特性に応じた教育活動を推進し、可能性を伸ばし、社会参加と自立に必要な力を育成する。	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○自他の心身や命を大切にし、社会の一員として明るく豊かに生活するために必要な知識・技能・体力を身につける。 ○多様な経験や成功体験を通して自己肯定感を高め、何事にも挑戦しようとする気持ちを形成する。 ○自発的な活動や仲間と共に考え協力する姿を大切にし、地域の中で主体的に生きていく力を育む。
	ありたい教職員の姿	○児童生徒への深い愛情と確かな人権感覚をもち、率先して取り組む活力ある教員。 ○専門性の向上と自己研鑽に努め、仲間と新しい教育実践に挑戦する教員。 ○組織の課題を発見し、新たな伝統・システム作りに取り組む創造性のある教員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈児童生徒・保護者〉 ○安心・安全な学習環境をベースとした、保護者との連携・相談体制の充実 ○将来の社会参加に向けた生活指導・学習指導・キャリア教育	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈小中学校〉 ○特別支援学校のセンター的機能を充実 ○地域の学校との交流及び共同学習の継続した取り組み 〈地域〉 ○防災・安全対策について、地域及び近隣の施設や事業所とのさらなる連携 ○人権について、地域社会に向けた発信の強化	〈関係機関〉 ○特別な支援が必要な子どもたちへの支援体制の確立 ○交流及び共同学習や、卒業後を見据えた実習等の連携した取り組みの継続 〈地域〉 ○障がいと障がい者への理解、本校の学校教育への協力や児童生徒が活躍できる場の提供
(3)前年度の学校関係者評価など	○交流及び共同学習について、活動の目的や支援のポイントを明確化し、教育内容や児童生徒の実態を共有する事前研修を実施してほしい。また、双方の学校で共通の視点をもって活動を進められるよう体制を整えていけるとよい。 ○防災・安全対策について、教職員間で共通理解を深める研修を実施し、実践的な訓練を一層充実させてほしい。また、近隣の学校や地域との連携を強化するとよい。 ○今後も、長期欠席の兆候を早期に把握し、クラス・学年・養護教諭などが連携して支援方針を検討する校内体制を更に整えてほしい。また、必要な児童生徒については、関係機関との連携をより強化するとよい。	
(4)現状と課題	教育活動	○校外学習や実習、児童生徒会活動、ICT 活用等の取り組みで成果はあるが、得た経験を日常生活に生かす工夫が課題である。学習内容の般化や自己表現の機会を充実させるとともに、指導方法を教員間で整理・共有し、組織的に取り組む必要がある。

		<p>○児童生徒の小さな変化を日常的に把握し、早期支援につなげるために、教職員間の情報共有と組織的な対応、関係機関との連携を一層強化する必要がある。また、自分の思いや考えを表現できる場面や学びを振り返る機会を充実させることが求められる。</p> <p>○社会性の育成と相互理解を深めるため、交流および共同学習の質を高め、事前・事後指導や教員の事前研修をさらに充実させる必要がある。また、学校間で共通の視点をもって取り組めるよう連携体制を整えていくことが求められる。</p>
	学校運営等	<p>○障がいの多様化や医療的ケアへの対応に向けて、教職員の専門性を高め、その力を日常の授業や支援に確実に生かせる体制を一層整備していく必要がある。</p> <p>○安心・安全な学校づくりに向けて、日常の安全確保や緊急時の対応について継続的に検証・改善を行い、防災・安全研修や実際の場面を想定した訓練を充実させる。また、地域や近隣校との連携を強化し、学校全体の安全体制を高めていく必要がある。</p> <p>○障がいのある児童生徒の人権を守るための取り組みを、幅広い視点から継続的に強化し、組織としての実践力を高めていくことが課題である。</p> <p>○校内外の支援体制を見直し、情報共有の仕組みや関係機関との連携を強化して支援の質を高めることが求められる。あわせて、児童生徒一人ひとりの課題に応じた支援内容を充実させる。</p> <p>○長期欠席の兆候を早期に把握して支援方針を検討し、組織として取り組んでいく必要がある。</p> <p>○業務見直しや ICT 活用により働き方改革は進んでいるものの、業務量の偏りには改善の余地がある。会議の効率化や休暇取得の促進を図り、全教職員が働きやすさを実感できる環境づくりを進めることが求められる。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 自分や周りの人の心や体、命を大切にすることを学び、社会の一員として楽しく幸せに生活するために必要な知識や技能、体力を身に付ける。</p> <p>2 様々な経験や成功したと感じられる体験を通して、自分に自信を持つ力を育て、どんなことにも挑戦する気持ちを作り出す。</p> <p>3 自分から進んで行動することや、仲間と一緒に考えて協力することを大切にし、地域の中で積極的に活躍できる力を育てる。</p>
学校運営等	<p>1 障がいの多様化、ICT 機器の活用を踏まえた教職員一人ひとりの専門性を向上させる。</p> <p>2 誰一人取り残さない教育の実現に向けたセンター的機能と安心・安全のための切れ目のない支援の充実に向けたネットワークを形成する。</p> <p>3 誰もが自信と誇りを持ち業務にあたることのできる「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習内容の充実	○児童生徒の実態をよりの確に把握し、学習指導要領に基づいて小・中・高の系統性を踏まえた年間指導計画を作成する。あわせて、個々の実態に応じた授業内容や支援方法を検討し、実践につなげる。	(年度末及び適宜記載)	

(1)児童生徒の実態把握と目標設定、教員間・保護者との共有、授業内容の検討と評価

【活動指標】

- ・個別の指導計画を基にした、課題や目標、評価の確認
- ・各教科の年間学習指導計画内容検討

【成果指標】

- ・教育活動・支援に満足している保護者の割合 80%以上

○校外学習や社会体験活動、児童生徒会活動、卒業後を見据えた各種実習等を通して、挨拶や他者との関わりを学び、社会性の育成と学びの般化を図る。また、自分の意志や気持ちを的確に伝える力を養う学習活動を行う。

(1)校外学習、現場実習等の体験学習

【活動指標】

- ・校外学習 各学部 2 回以上
- ＜高等部＞・現場実習 高等部 2 年生 各学期 1 回
- 高等部 3 年生 1 回以上

(2)全校集会等を通しての児童生徒会活動の充実

【活動指標】

- ・全校集会の取り組み 各学期 1 回
- ・運動会、学校祭、始終業式での司会進行や挨拶

(3)食に関する指導、保健指導、健康相談

【活動指標】

- ・食に関する授業 各学部 1 回以上
- ・保健指導 各学部 1 回以上
- ・個に応じた健康相談

(4)高等部生徒の進路希望の実現

【活動指標】

- ・高等部 1、2 年生 進路説明会の実施
- ・高等部 3 年生 進路懇談会、移行支援会議の実施

【成果指標】

- ・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 80%以上
- ・高等部生徒の進路希望の実現 100%

○体力向上につながる授業、ICT を活用した授業等により自立につながる力の向上を目指した取り組みを行う。

(1)体力向上に向けた活動

【活動指標】

- ＜小学部＞・からだタイム(リトミック)
- ＜中学部＞・朝の運動
- ＜高等部＞・持久走

	<p>【成果指標】 ・「体を動かすことが楽しい」と回答する児童生徒の割合 70%以上</p> <p>(2)授業等各活動での ICT の活用 【活動指標】 <小学部>・ICT 機器を活用した視覚支援 <中学部>・ICT 機器を活用できる機会を保障 ・初歩的な操作の指導 <高等部>・一人一台情報端末を使った授業の実践</p> <p>【成果指標】 ・ICT 機器を用いた授業を行った教員の割合 100%</p> <p>(3)個に応じた自立活動の設定 【成果指標】 ・校務支援システムを用いた自立活動の目標設定を行った児童生徒 100%</p>		
<p>2 命を大切に する教育</p>	<p>○児童生徒一人ひとりの個性を尊重し、誰もが安心して学べる安全な教育環境を整える。</p> <p>(1)命を大切に、いじめを許さない態度を養う学習 【活動指標】 ・ピンクシャツデーの取り組み ・いじめアンケートの実施 ・いじめ早期発見のための気づきリストによる実態把握 <高等部>・生と性の学習の実施</p> <p>【成果指標】 ・いじめ早期発見のための気づきリスト回収率 90%以上 ・「不安感や困り感を先生に相談することができる」と回答する児童生徒 70%以上</p> <p>(2)他者を思いやる学習機会の設定 【活動指標】 高等部・しゃべり場の実施</p>	<p>(年度末及び適宜記載)</p>	
<p>3 交流及 び共同学習</p>	<p>○地域の小学校・中学校・高等学校の児童生徒との交流を通して、経験を深め、社会性を育み、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会を設定する。</p> <p>(1)居住地校交流、学校間交流 【活動指標】 ・各学部、学校間交流の取り組み ・居住地校交流希望者に対して、年間 3 回以内の実施 ・居住地校交流の活動目的や手順について、事前研修の実施 【成果指標】 ・学校間交流 各学部での実施率 100%</p>	<p>(年度末及び適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			

(年度末に記載)

(2)学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 教員の専門性の向上	<p>○障がいの多様化に対応できる授業力や専門的知識、ICT 機器の活用スキルの向上を図る。</p> <p>(1)障がいの多様化、ICT 機器活用に向けた教育環境の整備 【活動指標】 ・一人一台情報端末やパソコン室の整備 ・ICT 活用に関する情報共有 年間5回以上</p> <p>(2)専門性の向上を目指した多様な研修会 【活動指標】 ・緊急時対応訓練(発作時の対応・プログラムの使用方法等について) ・進路研修会 ・公開講座 ・施設見学会 ・医療的ケア緊急時対応研修、訓練 ・てんかん発作時の対応研修、訓練</p> <p>(3)障がいの特性の理解や課題改善の指導や支援の方法について学ぶ機会の設定や肯定的な関わりを大切にした授業改善に取り組む。 【活動指標】 ・学部を交えた全体研修 ・専門的な学びの研修 ・教職員の学部交流</p> <p>【成果指標】 ・研修への参加 90%以上</p>	(年度末および適宜記載)	◎
2 安心・安全な学校づくりと、コンプライアンスの徹底	<p>○命の大切さを学ぶ活動に加え、新たな視点による防災・安全対策や避難訓練を実施し、幅広い視点から命を守るための取り組みを進める。</p> <p>(1)避難訓練、不審者対応研修 【活動指標】 ・避難訓練 各学期 1 回 ・失踪時対応訓練 ・教員対象の不審者対応訓練 ・スクールバス引き渡し訓練 ・ヒヤリハット・事故報告の情報共有の徹底、再発防止の検討及び事故防止予防意識の向上</p> <p>【成果指標】 ・学校の危機管理・防災対策への保護者満足度 70%以上</p> <p>○教職員としてのコンプライアンス意識を高めるとともに、障がいのある児童生徒の人権を守るための新たな取り組みを考え実施する。</p>	(年度末及び適宜記載)	

	<p>(1)信頼される学校づくり 【活動指標】 ・コンプライアンス研修 ・人権感覚ブラッシュアップ研修 ・職場の環境づくり</p> <p>【成果指標】 ・コンプライアンスに関する目標を達成した教職員 100% ・人権意識が向上した教職員 80%以上</p>		
<p>3 センターの機能の充実</p>	<p>○地域支援および校内支体制を整え、誰一人取り残さない教育の実現に向け、小学校・中学校・高等学校への積極的な情報発信・提供を行い、センターの機能を充実を図る。</p> <p>(1)保護者、地域の小学校・中学校・高等学校に向けての支援 【活動指標】 ・地域の小学校・中学校・高等学校対象公開講座 ・地域の小学校・中学校・高等学校対象施設見学会</p> <p>【成果指標】 ・校外支援の実施:年間30回以上</p> <p>(2)校内の支援体制および福祉との連携の充実 【活動指標】 ・支援会議 ・関係者会議 ・地域連携会議</p> <p>【成果指標】 ・校内支援の実施:年間50回以上</p>	<p>(年度末及び適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>4 働きやすい職場づくり</p>	<p>○働き方改革につながるよう、各部・各分掌で業務内容や体制を見直し、教職員一人ひとりが持てる力を発揮できる環境を整え、チーム稲葉としての組織力を高める。</p> <p>○ICT の有効活用と業務改善を進めることで、学校全体の働き方改革を推進する。</p> <p>【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・計画通りに休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 80%以上</p> <p>【成果指標】 ・一人当たりの月平均時間外労働時間 10 時間以下 ・時間外労働が月 45 時間を超える延べ人数 0人 ・時間外労働が年 360 時間を超える人数 0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 4月～12月 10日以上</p>	<p>(年度末及び適宜記載)</p>	

改善課題

(年度末に記載)

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	(年度末に記載)
学校運営について の改善策	(年度末に記載)